

## 緑の我が家

小野 不由美 著

高校生の浩志は父の再婚相手との関係が上手くいかず一人暮らしを始めることになりました。新しい「家」はハイツ・グリーン・ホーム。その「家」のある場所は以前住んでいたことのある地域でした。懐かしさとよく分からない不安感が入り交じる中、浩志は新しい生活を始めていきます。そして「和泉」と名乗る少年と出会い、なぜか和泉は浩志に対して「ここを出て行った方がいい」と忠告をします。そこから次々と不可解な事が起こるのです。この著者の本を読んで面白かったので、次は別の作品を読んでみようとの本を図書館で借りたままでは良かったのですが・・・ホラーでした。全く予想しておらず、なにかだんだん怖そうな展開になってきてから、本文紹介を読んで気づきました。でも読み出してしまったので気になってしまい「小中学生向きの文庫だからそんなに怖くはないはず」と楽観視して読み進めたのですが、やっぱり怖かったです。そして読んでいた時間は夜中。おかげでその晩から2〜3日怖い夢を見てしまいました。ただ怖がるだけでなく「何がそんなに怖かったのか」と真剣に考えました。夜中に幼稚園児が一人でチヨークで道に絵を描いていて、それが日ごとにマンションに向かって描き進められる。だんだん自分の住む部屋の前に近づいてくる。私には、夜中に子供が一人で遊んでいること自体が不自然で、その違和感がとてつもなく怖い、という印象をもちました。もうホラーはこりこりです。

扶紀子



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞